

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400021		
法人名	有限会社 ユートピア・アットホーム旭川		
事業所名	グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)		
所在地	北海道深川市音江町1丁目3番13号		
自己評価作成日	令和5年2月1日	評価結果市町村受理日	令和5年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0197400021-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は郊外の閑静な住宅街の中に立地しており、四季折々の景色の移り変わりが窓から一望できる。付近には公共施設が少なく不便のように見えるが、町内の商店を利用したり職員が代理で購入するなどして不便が無いようにしている。また医療機関への通院や緊急時の応援態勢は速やかにできる。事業所理念に基づいて、個々の利用者が暮らしてきた地域とのつながり(行きつけの店など)や役割を持つことの意義を大切にしている。行政や各居宅支援事業所からの急ぎの入居相談にもスピード感をもって対応しており、事業所としての使命を全うできるよう努めている。また、生活保護受給者も入居の対象となっており幅広く受け入れている。前時代的な「認知症の人」と一括りにするのではなく、「認知症」と『人(個人)』は分けてケアすることが大切と考える。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、道央道深川インターチェンジより車で約3分、国道12号線にある道の駅からも車で約4分と交通の便は良く、閑静な住宅街に隣接している。近くには郵便局、商店、公園があり、遠くの暑寒別岳まで見渡せる土地が広がる静かな環境にある。建物は鉄骨3階建ての2階に2ユニットのグループホームがあり、中央に2ユニットの共用空間と食堂が隣接し左右にそれぞれの居室を配した間取りとなっている。1階に介護付有料老人ホーム、3階は会議会場や倉庫に利用し、災害時は近隣住民の避難場所としても指定されている。利用者は公園や住宅地を散歩し地域の人と挨拶を交わし、花や木々を楽しみつつ目を癒しながら外気浴をしている。自治会との交流はコロナ禍で減少しているが、現在も自治会の獅子舞が事業所にも来所して利用者となれあう恒例行事は継続されている。管理者を含め職員との関係性がよく協働体制があり、管理者は働きやすい環境作りを努め、勤続年数の長い職員が多い。人間関係のよい事業所において利用者を支援する介護も家庭的な温かいものになっている。コロナ禍の中でも職員はオンライン研修を利用するなどして学び、介護に反映することを意識して仕事に励んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に理念を掲示して、カンファレンスや理念に沿ったケアが実施できているかどうか職員同士で確認しており、理念に近づけるケアに努めている。	事業所理念を、玄関や各ユニットに掲示し、会議等で話し合っ職員で共有している。数年前に全職員で話し合っ事業所理念を新たに作成、職員は元より利用者、家族、初めて目にする人にも理解しやすい言葉・内容のものとなり、ケアに反映させている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で町内会行事は中止となっています。町内の散歩で気軽に挨拶や会話を交わしている。	町内会に加入しているが、コロナ禍の影響もあり町内活動も限定的で、町内のゴミ拾いには職員が参加し、条件が許すなら利用者も参加している。散歩時に地域住民と挨拶を交したり、夏祭りに獅子舞が町内を練り歩き、事業所玄関前に来訪し利用者と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から認知症に関する相談などを受けている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響もあり2か月に1回、書面上での開催となっています。地域代表などから意見を伺い、サービス向上に努めている。	コロナ禍のため2か月に1回書面会議を実施している。関係者には議事録を送付し、質問や意見等を得て職員で話し合い、運営に反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当課へ毎月の利用状況を連絡している。	市高齢者支援課とは申請・報告をはじめ様々に関係性を築いている。身寄りがない利用者を受け入れていることから、生活保護係との連携も密である。管理者は市の認知症ケア研究会の役員を努め、市が運営する認知症カフェの手伝いなど協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し、身体拘束をしないケアの理解が深まる様に取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を3か月に1回定期的に開催して、内部研修を実施するなど身体拘束をしないケアへの理解を深めている。以前は札幌で開催される研修に参加していたが、現在はオンライン研修を受けその内容については職員に周知している。玄関の施錠は防犯や感染防止の目的で行われ、ユニットへの入り口は1日中施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を年2回開催し、高齢者虐待防止法や事例を活用し、学ぶ機会を設けている。			

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の活用が必要な入居者がいた為、各機関と連携し支援している。					
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容に沿って説明し、家族からの疑問も都度伺い、理解と納得を得た上でサインを頂いている。					
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要に応じて電話やメールの活用、院内での面会の機会を活用し意見を伺っている。	毎日の会話などから利用者の意見、要望の把握に努め、家族等の意見、要望は、電話等で聞いて運営に反映させている。家族から、家事への参加や脳トレ、塗り絵等の継続を要望されている。				
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要な物品の購入など職員の提案や意見を反映させている。	管理者は話しやすい雰囲気作りを心掛けており、日々の業務の中で聞き取りを行ったり、必要に応じ個別面談を行っている。管理者は働きやすい環境作りに努めている。職員からの要望や意見は、利用者のケアに必要な物品に関する提案が多い。				
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境を作れるように条件の整備に努めている。					
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を行い、知識や技術の向上に努めている。					
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に管理者が市内の事業所と連絡を取り合い、情報交換に努めている。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族を交えて要望を聞き取り、安心した入居に繋がる様に関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学をしてもらい、事業所の特性や雰囲気を知ってもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や関係機関と情報共有を行い、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの生活の主役は本人であることを職員同士で認識し、職員を介して他者と支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期通院に併せて、院内限定ではあるが面会やレストランでの食事の機会を確保している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出頻度は減っているが、理容院など個々の要望は可能な限り実現できるように努めている。	月1回の理容院の来訪や、利用者が馴染みの理容院への送迎、買い物付き添い、知人との電話や手紙のやり取りの支援など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日の流れの中で個々が支えあうことができる機会を作り、良い関係が築けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談に応じれるように心構えをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活状況や本人の要望を踏まえて職員間でアセスメントを行い、意向に沿った生活が送れるように努めている。	利用者ごとの担当職員を配置しているが、職員全体で見守る体制を築いており、日々の会話や動作、表情、家族からの情報などから希望や意向に添うように努めている。得た情報は申し送りノートや連絡帳を活用して職員全員で共有している。困難な場合は、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居後の生活歴を家族から聞き取り情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を記録して職員間で共有できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で本人の要望を伺い、現状に即した介護計画を作成している。	利用者ごとに担当職員を配置し、モニタリングを行い、担当職員、利用者と家族の意向を反映させて、3か月毎に介護計画を作成し家族への説明と同意を得ている。利用者の状況に変化があれば、その都度現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を職員間で情報共有し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出張理髪や歯科往診など柔軟な支援ができるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの理容院などの利用を支援し豊かな生活が送れるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけの病院に通院できるように支援している。	利用者、家族の意向に沿ったかかりつけ医を受診できるよう支援している。職員が同行し、利用者の日々の様子を医師に伝えている。結果は電話又はメールで家族に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化に応じて外来看護師に相談するなど、適切な処置や診察が受けられるように支援している。		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に必要な引継ぎを行い、安心して治療が受けられるように努めている。					
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に終末期ケアは行っていない旨を伝えて理解を得ている。また、重度化への対応は一定の基準を設けているが、家族の希望も尊重しながら柔軟に対応している。	入所時に利用者と家族に重度化及び看取りに関する指針について説明し署名・押印を得ている。家族の意向を聞きながら事業所で出来る支援を行うが、医療行為の発生や食事の摂取が困難になった場合は、家族や主治医と相談し、入院など希望に添うよう努めている。身寄りのない人がなくなった場合は職員が立ち会うなどしている。				
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	起こりえる状況を想定して、適切な対応ができるように職員間で情報共有に努めている。					
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っているが、コロナ渦のため相互の交流は控えている。	年2回火災想定避難訓練(日中想定・夜間想定各1回)を1階の介護付き有料老人ホームと合同で消防署の指導を受け実施している。市との「災害発生時における福祉避難所設置運営に関する協定」に基づき、災害時には地域に住む介護度の高い高齢者や障がい者の避難場所として受け入れるなど、地域との協力体制を構築している。各ユニットのスプリンクラーは年2回点検している。	事業所周辺に住んでいる職員が少ないことから、災害時には消防、警察、地域住民の助けが必須である。利用者の安否確認を速やかに行えるよう、利用者ごとの避難方法に利用者の特徴を記した写真のファイルを作成添付し、活用することが期待される。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の性格などを理解し、穏やかに過ごせるような声掛けに努めている。	利用者一人ひとりの人格や考えを尊重し丁寧な言葉を用いるよう指導している。プライバシーにも配慮し、引き継ぎ時などではイニシャルで情報共有を行ったり、トイレ誘導時は耳元でさりげなく声掛けし、尊厳を損なわないよう努めている。個人情報事務所の外から見えない場所で適切に管理を行っている。				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホームでは本人の希望や意見を表出しやすい空間づくりを心掛けている。その時々状況に合わせて気持ちを汲み取り希望が叶えられるように支援している。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの時間を尊重しながら、日課の体操や家事などへ声掛けし意向を尊重できるよう支援している。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用し、カットなど希望に合わせてしてもらえるように支援している。					

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の準備や片付け等で入居者の力を発揮できる機会を作り、それが自然な光景になっている。可能な限り好き嫌いなどの嗜好に対応できるように努めている。	献立は法人本部で作成し、食材も委託した業者から届けられる。調理は職員が行い、利用者は能力に応じ、味付けや食事の準備、片付けなどを行っている。誕生日や季節の行事には店屋物を利用したり、寿司など利用者の希望に合わせた食材に変更するなど食事を楽しめる工夫をしている。				
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は日々確認し、状態に合わせて調整している。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合わせて対応している。必要時には、歯科往診を受けられるように連携を取っている。					
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握し、必要な方には声掛けや誘導を実施している。	排泄チェック表を活用し、表情や態度に気をつけながらさりげなく声かけてトイレ誘導を行い、トイレでの排泄支援を行っている。能力に応じて紙パンツ、パッド類を使い分け、夜のみオムツを利用する場合もある。夜中のトイレ行動に備え必要に応じてセンサーを使用し利用者の安全に配慮している。				
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分摂取量を意識し、レクや体操で体を動かす事が出来るよう努め、状況に応じて下剤調整をしている。					
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯が決められているが、入浴剤を選んでもらったり会話も楽しめるように努めている。	週2回の入浴を基本とし、希望に応じて毎日入浴を楽しむこともできる。2回以上入浴を楽しむ利用者もいる。最初の入浴者が数種類の用意された入浴剤から好みのものを選ぶことができる。希望により同性介助にも対応し、入浴を楽しめる工夫をしている。				
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のリズムに合わせて、安心した生活が送れるように適時促している。					
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	効能と副作用等の情報を共有し、体調の変化に気づけるように努めている。また、必要に応じて医療機関との連携も整えている。					
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などを理解し、本人の力量に合わせた役割や好きなことを通じて楽しく喜びある生活が送れるよう支援している。					

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦のため外出行事はできていないが、散歩や行きつけの美容院に行くなどして希望に添えるように努めている。	コロナ禍のため外出の機会が少なくなっているが、天気の良い日には公園や町内を散歩したり、住宅街の庭の花や樹々を見たり、玄関前のベンチでの日光浴を楽しんでいる。車を利用して桜や菜の花、紅葉見学に行ったり、通院時に家族と一緒に買物や食事なども楽しんでいる。				
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者に留まっているが、使えるように支援している。					
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればホームの電話を使ってもらったり、手紙を出せるように支援している。					
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースが不快な空間にならないように配慮している。また、入居者同士の関係にも配慮して、座る席も可能な範囲で調整している。	居間、食堂は一体的で、大きな窓からは陽が入り、明るい室内は温度、湿度、音が配慮され、ゆったりと過ごせるようにソファが配置され、ソファに寝転んでテレビを見たいという利用者のために、テレビを見れる場所を2カ所設けるなど利用者が快適に過ごせるよう配慮している。壁にはぬり絵など利用者の作品や季節の飾りつけをして家庭的な雰囲気の中で、利用者はラジオ体操を行ったり、ぬり絵、脳トレ、縫物を楽しむなど居心地よく過ごしている。				
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の相性も考慮しながら席順を調整している。また、複数あるソファも各々が居心地の良いと感じる場所に座るなどしている。					
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮しながら居室空間を作っている。馴染みの物を持ち込むことで安心できる空間作りに努めている。	ストーブ、洗面台が備え付けられ、利用者は使い慣れたタンスや電化製品、仏壇など好みのものを持ち込み、家族の写真などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。入り口にはのれんがかけられている。				
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分や居室空間共に状態に合わせて、理解して使用しやすい環境作りを意識している。					